

私部南遺跡（その1-2）現地公開資料

平成19年2月16日(金)

財団法人 大阪府文化財センター

Ⅲ. 今回の調査では

今回の調査では、現在までに図3のような状態で竪穴住居跡5棟、掘立柱建物14棟が見つかっています。その他、溝や大きな穴もあり、これらは建物を区画したり、ゴミ捨て穴として利用されたと考えられます。本日は、これらのうち古墳時代中期の竪穴住居跡を中心ご覧頂きます。

283 豎穴住居跡

調査区の南側でみつかりました。中世の震地開発により床面まで大きく削られていますが一辺6m弱(約12坪)の四角形のもので、床面には、本来4本の柱穴が設けられいたと考えられ、これらにより屋根を支えていたものと考えられます。後の時代の破壊がひどいためか、土器などは見つかりませんでした。

133 豎穴住居跡

西側で見つかった、長辺5m、短辺4m(約6.6坪)の長方形の住居跡です。現在でも土壁が30cm以上も残っている非常に残りの良いもので、南辺には煮炊きに使用するカマドが設けられ、床面には4本の柱穴が見られます。住居の中からは、須恵器の蓋杯と呼ばれる当時の食器や、塩作りに用いられる土器が残されていた他、フイゴの羽口など鍛冶に用いられる特殊な道具も見つかりました。

134 豎穴住居跡

283 竪穴住居跡とほぼ同様の床面積（約12坪）を持つ四角形の住居跡です。柱の数は135 竪穴住居跡に壊されているため、現在2本しか残っていません。北側にはカマドが作られており、家を出て行く時にはその真ん中に須恵器の杯を置いて立ち去っていった状況をとどめていました。

135 豎穴住居跡

134 竪穴住居跡が埋まった後に作られた竪穴住居跡です。大きさは長辺 4.5m、短辺 4.0mで、床面積は（約 6坪）です。134 竪穴住居跡の上に作られていることや、南側の残り具合が悪いために、床面の状態が観察しにくい状況ですが、ほぼ真ん中に完全な形を保った須恵器の蓋杯が置かれていました。また、砥石が3点も見つかったことから、工具や刃物類などの仕上げを行った人々が住んでいた家とも考えられます。

IV. 今後の調査では

これらの竪穴住居跡は、134・135 竪穴住居跡のように重なり合ったり、133・134 竪穴住居跡のように、互いに近づきすぎて屋根が簷けない状態となっているものがあります。このことから、ほぼ同じ場所に竪穴住居跡が繰り返し建て替えられていったものと考えられます。

さらに調査が進めば、またこれと同じような状況で竪穴住居跡が見つかるかも知れません。そして、そこから時代を測る物差しとなる土器がたくさん出てくるかも知れません。

今後、周辺の調査を続け、これと同時に土器などの観察を進めて行く予定となっています。この作業によって、さらに多くの成果が積み重ねられ、竪穴住居跡の先後関係や、より細かな時代などが明らかになってゆくと期待されます。

これまで、交野地域の歴史像は、とすれば山麓部や小高い部分で見つかった遺跡や土器などで語られることが多い傾向にありました。しかし、今回の私部南遺跡のように、平地部で次々と遺跡が見つかりはじめ、そこから数多くの資料が得られつつあります。

これらの資料は、周辺地域の歴史をより詳しく知る手掛かりになるものであり、非常に注目される成果をもたらせつつあります。

I. 私部南遺跡って？

私部南遺跡は、交野市向井田・私部南付近に広がる集落遺跡です。これまでに見つかった土器の時代や量などから、弥生時代と古墳時代にムラが最も栄えたと考えられ、少量ながらその前後の時代の土器や石器も見つかっています。

今回は、遺跡北東部の（その1-2）地区で見つかった古墳時代中期の竪穴住居跡などを見学して頂きます。調査が行われるきっかけは、遺跡内に第二京阪道路を建設する計画が立てられたためです。これまでの調査では、いきいきランド交野の北側で、北河内では初めてとなる弥生時代前期の竪穴住居跡を始め、古墳時代前・後期の水田跡、中世の耕作跡が見つかりました。また、最近では、京阪電車交野線の東側で縄文時代中期末の貯蔵穴、弥生時代中期の大形竪穴住居跡、古墳時代中期から後期にかけての方形竪穴住居跡や掘立柱建物群がとて残りの良い状態で見つかったため、つい最近、新聞などで大きく報道され話題を集めました。

Ⅱ. 周辺の遺跡

調査地周辺ではこれまでも数多くの遺跡や古墳が見つかっています。主だったものだけでも旧石器時代のナイフ形石器や、近畿地方でも最古級段階の縄文土器や炉跡が見つかったことで全国的に有名な神宮寺遺跡、縄文時代中期から後期の土器が見つかった星田旭遺跡があります。弥生時代では、前回の私部南遺跡の調査で前期の竪穴住居跡が調査され、私部城遺跡では土器や石庖丁も見つかっています。中期になると私部南遺跡などで土器が見つかるほか、上の山遺跡では独立棟持柱を持つ大きな掘立柱建物の発掘調査が行われました、後期では南山・寺・森の各遺跡で土器などが見つかっています。古墳時代では、初源期の方前山古墳である森古墳群が山腹に築かれ、中期になると交野高校一帯に車塚古墳群が広がっていました。そして、後期では山麓部の倉治や寺に小規模な古墳が次々と築かれました。



図1 調査区の位置と周辺の遺跡分布

見つかった竪穴住居跡と掘立柱建物



図2 調査区的位置

▼ 写真1 133竪穴住居跡（南方向から）

今回の中で最も残りの良い住居跡です。四角形に掘りくぼめられ、床面には4本の柱跡が認められました。手前に見える「U」形に盛り上がった部分は、煮炊きに使用されたカマドの跡です。

住居の中からは、当時のお茶碗である須恵器の蓋杯や、塩作りに使われた土器、フィゴの羽口などが見つかりました。

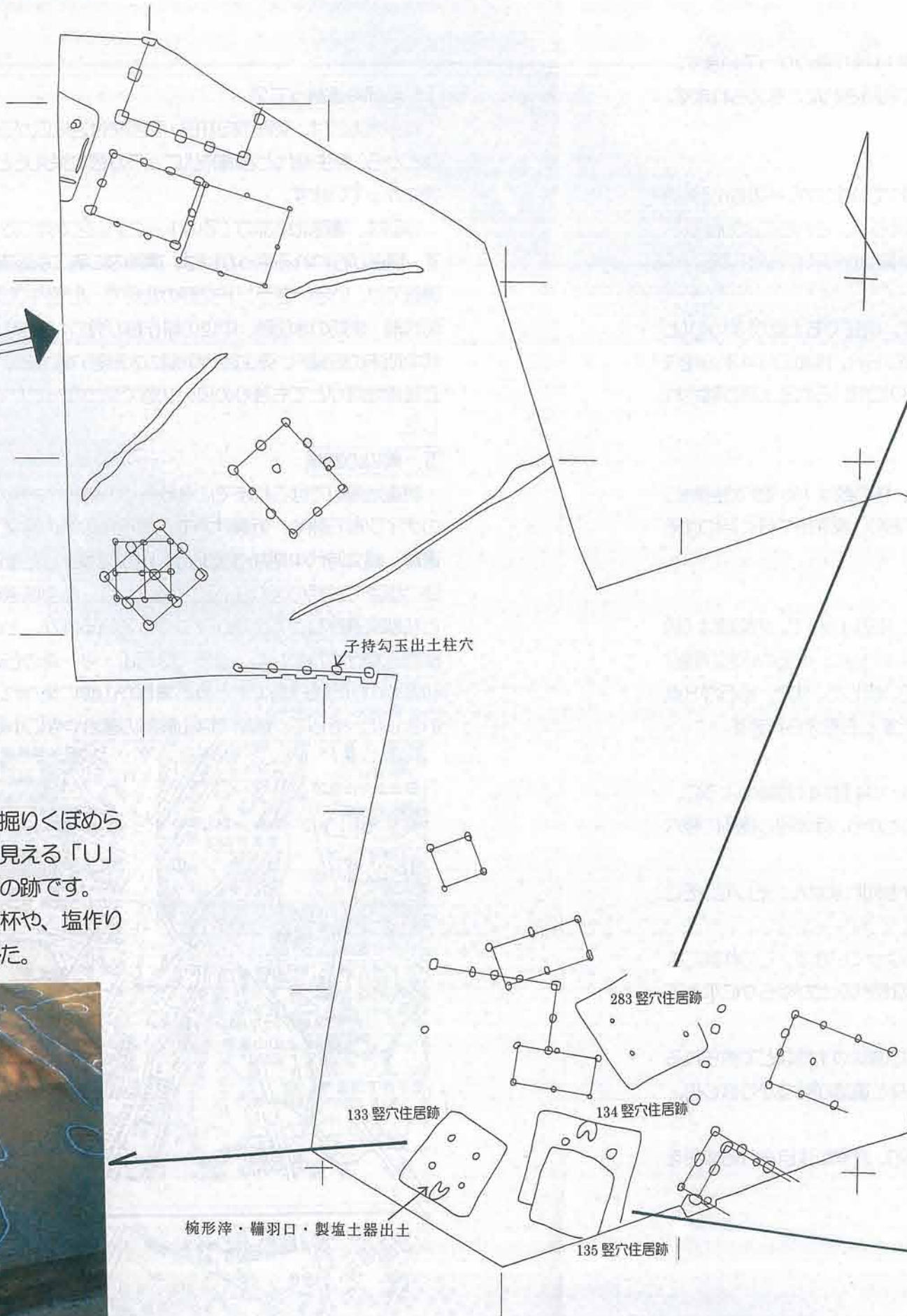


図3 建物の分布状況図 (S=1/300)



▲ 写真2 見つかった竪穴住居跡群（北方向から）

4棟の竪穴住居跡がまとまって見つかった様子です。手前の非常に浅いのが283竪穴住居跡、中央上の小さい方が135竪穴住居跡、同じく大きい方が134竪穴住居跡、右上隅に見えるのが133竪穴住居跡です。

▼ 写真3 134・135竪穴居跡（南方向から）

二つの竪穴住居跡が重なって見つかりました。奥の大きい方が134住居跡、手前の小さい方が135竪穴住居跡です。双方の重なりから、手前の135竪穴住居跡の方が新しいと判明します。

上部中央には134竪穴住居跡のカマドが見え、そのほぼ中央には家を捨てる際に置き去られた須恵器の杯がわずかに見えます。



私部南遺跡の発掘調査

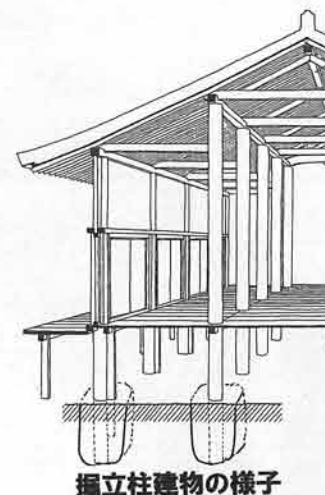
財団法人 大阪府文化財センター

交野市立交野小学校の皆さん、私部南遺跡へようこそ！

私部南遺跡は交野市私部南・向井田一帯に埋もれています。今回、遺跡内に第二京阪道路の建設が計画されたため、発掘調査を行っています。これまでの調査で、弥生時代前期（約2,200年前）から室町時代（約600年前）にかけての建物跡や田んぼ・畑の跡などがみつかりました。

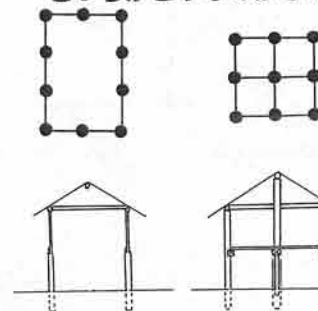
今日はこれらの中でも1. 古墳時代（約15,00年前）の竪穴住居跡、2. 飛鳥時代（約13,00年前）の掘立柱建物跡、3. みつかった土器や石器などの遺物、4. すぐ東側で行なわれた上私部遺跡の調査風景ビデオの4か所をみていただきます。

皆さん、今回の見学会を通して、大地に埋もれた交野の歴史に触れ、興味を持ってみてください！



掘立柱建物の様子

どっちがどうなのかなあ？



掘立柱建物跡ブース

(柱配列のなぞ)

飛鳥時代（約13,000年前）の掘立柱建物跡です。四角く窪んでいるのは柱を建てるために掘った穴で、その中の丸い部分は柱が埋められていた跡です。柱の配列により建物はどう違うのかななどの説明を聞き逃さないでください。

大きな土器が出てきたゾ



ビデオブース

(キサベという地名の由来は？)

いきいきランド交野東側で行なった発掘調査の記録映像です。発掘調査の手順や作業の様子をみることができます。交野市域の話も盛りだくさんで、この地域がなぜ「キサベ」と呼ばれるようになったのかも説明されています。聞き漏らさないでください。

ビデオブース

竪穴住居跡ブース

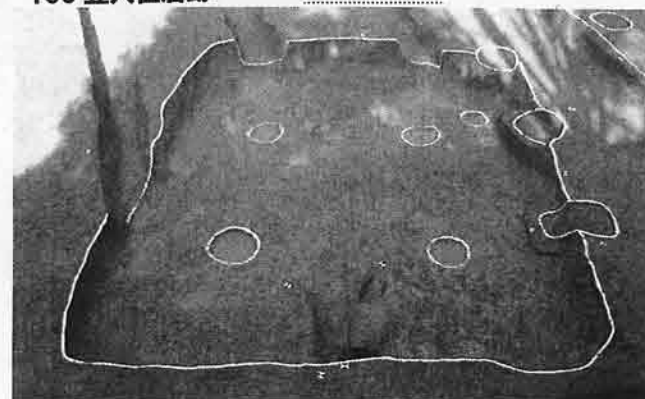
135 竪穴住居跡

133 竪穴住居跡

134 竪穴住居跡

283 竪穴住居跡

133 竪穴住居跡



竪穴住居跡ブース (引っ越しの忘れ物？)

古墳時代（約15,000年前）の竪穴住居跡です。四角く掘り窪められた床面には4本の柱跡がみえます。壁に接して土がハート形に盛り上がった部分がカマドの跡です。その中に何が置かれているのか注意深く観察してみてください。



家の中の様子

遺物展示ブース



子持勾玉

遺物展示ブース

(土器や石器、今の道具と比べてみて…)

大昔この地に暮らしていた人々の生活用具です。焼き方の違いで赤く仕上がる土師器と、灰色にされる須恵器という土器に分けられます。種類には煮炊きに使う甕、食器とされる高杯や蓋杯などがあります。現代の私たちのうつわと比べて、どこがどう違うのでしょうか？ また、遺物の中には、フィゴの羽口という鍛冶道具もありました。

古墳時代の土器

